

第3 学術研究、地域貢献活動、国際交流の推進等による、大学ブランドの確立

2 市民との連携・交流による、地域の保健医療への貢献の推進

(1) 地域と連携した教育研究活動等 (P. 26)

○訪問看護にかかる大学の教育・研究・社会貢献としてのかかわり方の検討

神戸市各区の介護需要量の将来予測や、訪問看護ステーション数の将来需要予測により、訪問看護に関する地域の現状把握と分析を行い、訪問看護にかかる教育研究・地域貢献にかかる大学のかかわり方について検討を進めた。その結果、with コロナ下での課題に直面している訪問看護師や、ヘルパー等及び訪問看護ステーションなどの事業者を対象に、インターネット等を活用した人材養成、連携強化などの解決策の立案につながった。

なお、この解決策の具体化に向け、兵庫県や神戸市に提案を行っている。(兵庫県ポストコロナ社会の具体化に向けた補助事業「オンライン看護等の推進」(200万円)採択)

○現代GP事業、COC+事業を含む地域貢献事業の成果の総括・評価と新たな展開

これまで取り組んできた地域貢献事業について、直近5年間の総括を行うとともに、これらの実績を踏まえ、新たに学長をトップとする地域連携・国際交流・生涯学習センターの設置に向けた構想委員会を設置し、さらなる地域貢献、国際交流、生涯学習の取組みを組織横断的に展開するための検討を進めた。

また、同委員会は、特に、新型コロナウイルス感染症対応として、県市での電話相談への出務や、軽症者療養施設について運営マニュアルの作成等の開設準備や開設後の運営に自律的に参画し、大学としての地域の保健医療への貢献のモデルを構築した。

現在、with コロナ下での地域看護・保健に対する大学の貢献(人材育成、コンサルテーション、オンラインによる看護など)を学内横断的に検討し、感染を恐れて診療を躊躇する慢性疾患患者への受診勧奨や専門職・事業者に対する感染予防対策などの双方向研修会の開催など、具体化に向けて兵庫県や神戸市に提案を行っている。

○教育ボランティア事業

教育ボランティア導入授業は、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プラン(現代GP)をきっかけとして、2006年度から地域住民と共に創っていく新たな教育モデルとして実施している本学独自の取組みであり、全学的な取組みとして実施しているケースは他大学ではほとんどなく、先進的な取組みとなっている。具体的には、地域住民に、看護技術演習の模擬患者のほか、ゲストスピーカー、健康生活支援技術演習における学生が企画・実施する健康教育の模擬受講者、家庭訪問の受入家族等を担っていただくものである。また、年度末には、教育ボランティア交流会として、教員、教育ボランティア、学生による総括を行っている。

この教育ボランティアの導入は、学生の多様で実践的な学習、リアルな学習が可能となり、教育活動全体の活性化につながるとともに、地域住民の健康に対する意識向上にも資する画期的な取組みである。

なお、2019年度は、新設科目である、多職種連携I(神戸学院大学と共同で実施)、フィジカルアセスメントに教育ボランティアを導入するなど、前年度に比べて実施科目数、日数、ボランティアの延べ参加数とも増加している。

〔実施状況〕

2019 年度	←	2018 年度
14 科目 18 日・12 回※ 延べ 296 人		13 科目 14 日・12 回※ 延べ 282 人

看護学原論、基礎看護技術演習、在宅看護論など計 14 科目（全学年）

※健康生活支援学実習は 12 回実施